



# 浜松市博物館情報



Monthly Report from Hamamatsu City History Museum

2020.6.15  
No.338

## 疫病退散の護符 「蘇民将来」

そみんしょうらい

はしか、天然痘、インフルエンザなどの疫病(感染症)は、交通システムが発達して人々の往来と交流が活発になるにつれ、より広範囲で猛威を振るうようになりました。では、医学が未熟で、その原因も治療方法も正確にわからなかった時代の人々は、どのようにして疫病に対処していたのでしょうか。

昔から、他所からやってきた目に見えない何かの力によって疫病が起き、人から人へと伝染するということは、観察と経験によって知られていました。日本では、疫病は他所から来た荒ぶる神の仕業とされ、その神をもてなして鎮め、穏便にどこかへ立ち去ってもらえば、厄災から逃れられると信じられてきました。その疫病神を除けるためのおまじないとして作られたもののひとつが「蘇民将来」の護符です。この系統の護符は、疫病除けや出世開運などのお守りとして、京都市の八坂神社、愛知県の津島神社など、全国各地の牛頭天王(ごすてんのう)と縁が深い社寺で、現在でも授与されています。

これらの札の多くはヤナギやモモなど病魔を払うとされる木材を、六角形か八角形の

柱塔状に加工したもので、側面には「蘇民将来子孫」などの文字と、魔除けの意味がある模様が描かれています。

「蘇民将来」は人の名前前で、関連する様々な説話がありますが、最も古いのは鎌倉時代に書かれた『日本書紀』の注釈書『釈日本紀(しゃくにほんぎ)』に引用されて伝わっている備後国風土記(びんごのくにぶとぎ)逸文(いつぶん)です。それによると、来訪した武塔神(むとつのかみ)を家に泊めてもてなした蘇民将来に対して武塔神が、蘇民将来の子孫を名乗って茅(ち)の輪を腰に着ければ疫病にかからないことを約束したとされます。この武塔神は、スサノオ、牛頭天王と同視され、疫病退散を願う祇園(ぎおん)信仰、御霊(ごりょう)信仰と混じり合っており、各地に広まりました。蘇民将来信仰は、現在でも毎年六月末に各地で行われる茅の輪くぐりの風習や祇園祭とも繋がりがあります。

京都市の八坂神社の祇園祭で授与される粽(ちまき)には「蘇民将来之子孫也」の文字が記された紙の札が付けられています。

「八日堂(ようつかどう)の蘇民将来」は、長野県上田市の信濃国分寺(通称 八日堂)にて、毎年一月八日の縁日に合わせて授与される護符です。この護符には、寺の授与品である蘇民将来符と、境内の露店で売られる、七福神などの絵入りの絵蘇民があります。蘇民将来の蘇の字は、異体字の「蕪」が使われています。この護符は疫病を除いて福を招くとされ、各家の戸口に吊るされたり神棚に置かれたりします。かつては、小さいものは腰に下げるなどして身に着けられていました。

材料のドロヤナギの木は、現地では、煎じて飲むと胃痛に効くといわれてきました。古代中国から日本に伝わった正月上卯(じょうぼ)の日に邪気を払う風習で使う道具、卵杖(たまごぼう)・卵槌(たまごつち)にヤナギが用いられていたことから、八日堂の蘇民将来のルーツのひとつをそこに求める説もあります。

八日堂の蘇民将来信仰は古文書により室町時代まで遡ることができ、江戸時代初期の八日堂縁日の様子を描いた図も残されています。



《八日堂の蘇民将来》当館蔵

上：蘇民将来符 下：絵蘇民

※7月12日まで当館で展示中

【博物館所蔵資料の紹介】  
「蘇民将来」札の木簡

中村遺跡（伊場遺跡群）出土

蘇民将来子孫家也  
※「蕪」は蘇の異体字



蘇民将来と書かれた木の札（木簡）が、発掘調査によって土の中から発見されることもあります。全国では、同様の札が70点余り見つっています。最も古いのは、京都府の長岡京跡で出土した、約1200年前の、奈良時代末期から平安時代初期のものとして推定される木簡です。

浜松市内では、2点の蘇民将来木簡が、中村遺跡の溝の跡から出土しています。市内で木簡が見つかる遺跡としては伊場（いば）遺跡が有名ですが、中村遺跡は伊場遺跡の北側の、雄踏街道沿いに東西に広がる遺跡で、伊場遺跡群を構成する遺跡のひとつに数えられています。

中村遺跡出土の蘇民将来札の木簡は、今から500年くらい前の、室町時代のもので推定されています。上の写真はその内の1点です。ヒノキ材で作られ、大きさは縦73mm（下部欠損）、厚さ5mm、上端の左右2か所に切れ込みを入れ、ひもをかけて留めやすいように仕立てられています。前出の『備後国風土記』逸文には、厄災から逃れるために蘇民将来の子孫を名乗って茅の輪を腰に付けるとありますので、この木簡も茅の輪と一緒に紐で腰につけるか、門や戸口に吊るすなどして使用されたのかもしれませんが、中村遺跡ではその使われ方の手がかりとなるようなものは見つかりません。

催し物のご案内

★テーマ展「まちの盛り場（さかりば）」

開催中 ～ 7月12日（日）

芝居や落語などの芸能興行を通して、浜松地域のまちの盛り場のすがたをご紹介します。

★テーマ展「あかりの道具」

7月25日（土）～ 9月27日（日）

暮らしと密接している「あかり」を、道具の変遷や人々の暮らしとともに探っていきます。

☆ギャラリートーク

7月31日（金）、8月7日（金）14：00～

★縄文のくらしチャレンジ

6月20日（土） 9：30～11：30

雨天中止 13：30～15：30

蛸塚公園を巡り、火起こしや弓矢、ドングリ割りなど、縄文時代の蛸塚の生活を体験します。

※参加無料、事前申込み不要。どなたでも参加できます。（小学校3年生以下は保護者同伴）

★火起こしマスターへの挑戦

～火打ち石までの道～

7月4日（土） 9：30～11：30

13：00～15：00

親子や友達との2人以上のグループで、様々な火起こしにチャレンジしよう！

※参加無料、事前申込み不要。

対象小学生以上（小学校3年生以下は保護者同伴）

★かやぶき屋根の下で聞く日本の昔ばなし

7月11日（土） 14：00～

場所：蛸塚公園内旧高山家住宅

※参加無料、事前申込み不要。



新型コロナの影響により、予定が変更になる場合があります。詳細はホームページ、SNSでご確認ください。

新型コロナ対策として、ご来館の皆様には以下のことをお願いしています。

- ・マスクの着用
- ・館内での会話は控えめに
- ・同行者以外との距離をあげる



体調がすぐれない場合は来館をご遠慮ください。

浜松市博物館

開館時間 9：00～17：00

6・7月の休館日 6/15,22,29,7/6,13,20,21,22

〒432-8018 静岡県浜松市中区蛸塚四丁目22番1号

TEL 053-456-2208

FAX 053-456-2275

hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp

ホームページ <https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/>